

秋田焼山の火山活動解説資料（平成 28 年 12 月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3-①）

東北地方整備局が山頂の西に設置している焼山監視カメラによる観測では、叫沢源頭部の噴気さけびざわの
高さは噴気孔上 20m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。梅森つがもりに設置している監視カメラ
による観測では、湯沼周辺に噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 3-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、
気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧する
ことができます。次回の火山活動解説資料（平成29年1月分）は平成29年2月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成
しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ
（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の状況

- ・左図：山頂の西約 2 km に設置されている焼山監視カメラ（東北地方整備局）の映像（12 月 21 日 02 時 00 分頃）です。
 実線赤丸で囲んだ部分が叫沢源頭部の噴気で、この時観測された噴気の高さは 20m です。
- ・右図：梅森（湯沼の東約 1 km）に設置している監視カメラの映像（12 月 22 日）です。

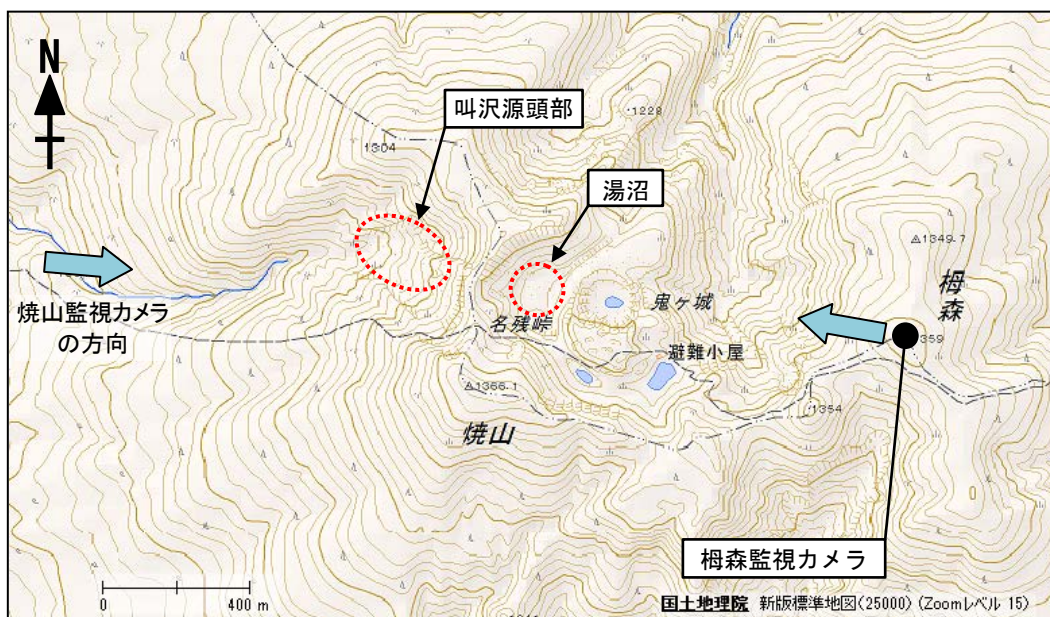


図2 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部位置図

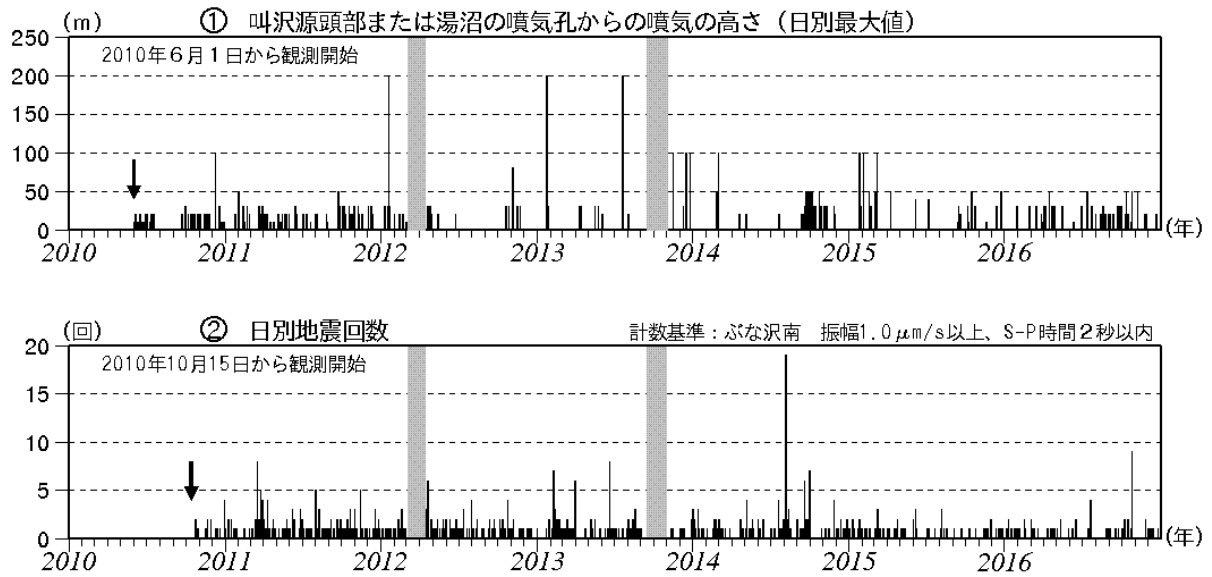


図3 秋田焼山 火山活動経過図 (2010年6月～2016年12月)

- ・ 灰色部分は欠測を表しています。
- ・ ②2015年9月以降は山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。(2010年から2015年9月までは山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を含みます)

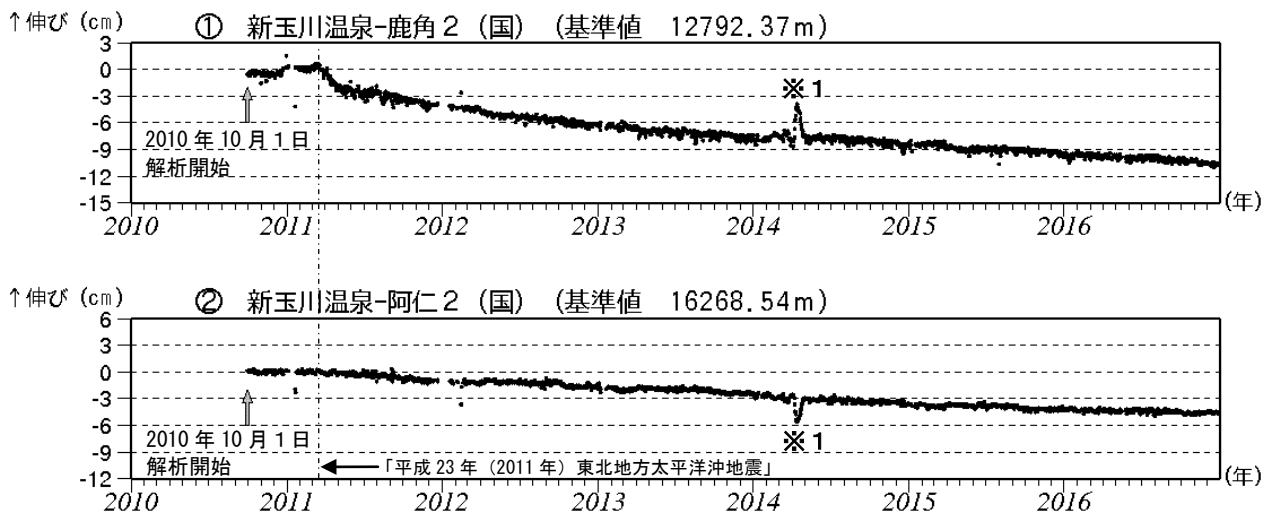


図4 秋田焼山 GNSS¹⁾ 基線長変化図 (2010年10月～2016年12月)

- GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。
 - 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ①～②は図6のGNSS基線①～②に対応しています。
 - グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
 - (国)は国土地理院の観測点を示します。
- ※1 2014年3月から4月にかけての、新玉川温泉観測点の変動は火山活動に起因するものではないと考えられます。

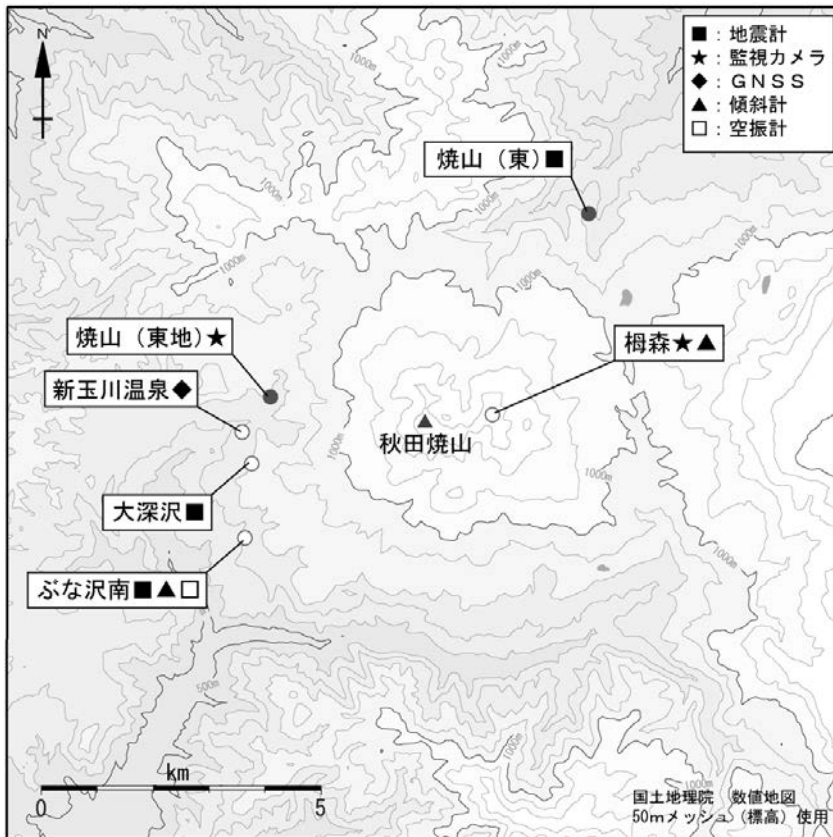


図5 秋田焼山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

※大深沢、柵森：12月1日運用開始。

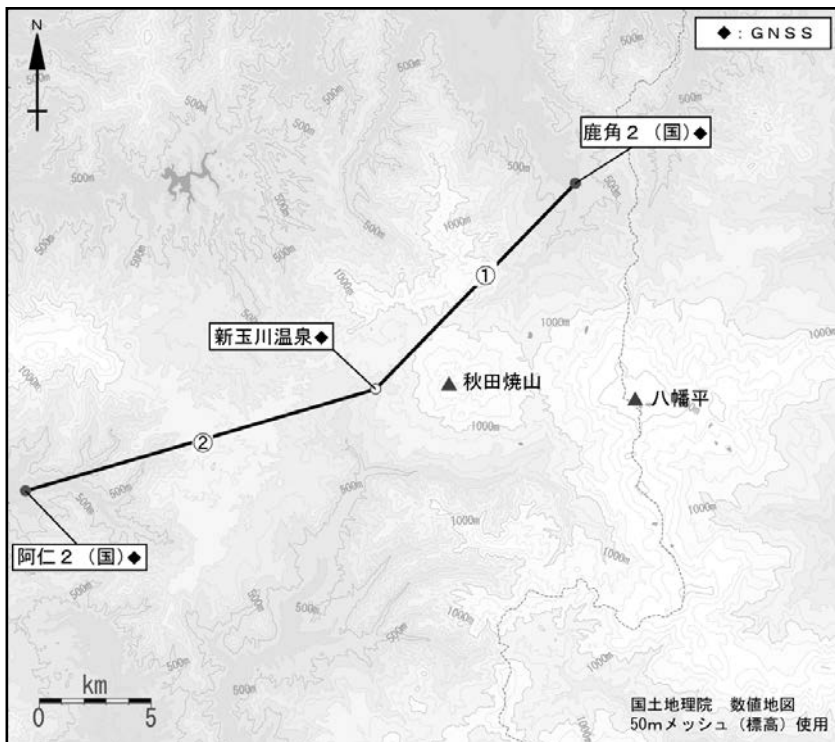


図6 秋田焼山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院